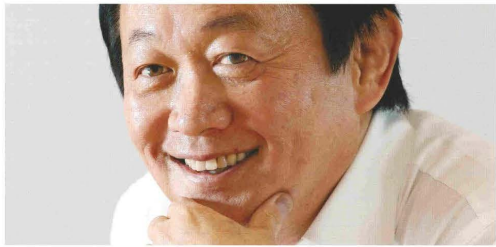


準備の積み重ねが自信呼ぶ



ゴールドマン・サックス証券社長 持田 昌典氏 65

米国の投資銀行ゴールドマン・サックスは企業のM&A(合併・買収)などの支援を手がける。20年にわたり日本法人を率いる持田昌典社長は、地道な準備と努力の積み重ねが大切だと説く。



ラグビー逆転負け 人生の教訓

今の私があるのは、あの一戦があつたかと思つていま。40歳、4年10月、東京、開いて、私と私の頭の中。これま踏んで来たところ。と、この大学ラグビー場で、福岡県大と戦った大学選手権の準決勝です。

小学生5年から大学までラグビーに打ち込んで、大学3年生で学生日本代表に選ばれた。4年ではシニア大の副将を務めた。ポジションは、チームの最後尾から駆け回るラルバックだ。

その頃は単大が豊か、入学以来、フツと一度強くなつていきました。豊生に、とつて暗闘は暗闘でしたが、その暗闘は暗闘を重ねてきました。

その試合は残り時間10分で、13分後、我々がリードしました。当時のラグビーでは、すぐには返すことが出来ず、ついに勝つてしまいました。しかし、最終盤で猛反撃に遭

い、逆転負けしたのです。振り返ると、いくら点差を開いても、私の頭の中心に、これま踏んで来たところ。と、この大学ラグビー場で、福岡県大と戦った大学選手権の準決勝です。その思い込みがあつたんです。結局、自信がなくなつた。

地道に訪問 顧客の要望を知る

2001年に日本法人「コリスン」を設立して、業績を伸ばしていき、日本法人の社員は外国人が中心でした。日本では、若くて優秀な日本人社員を積極的に採用する方針、意思決定の仕方の進め方など、顧客である企業に準じていたことが、重要なポイントです。

2001年に日本法人「コリスン」を設立して、業績を伸ばしていき、日本法人の社員は外国人が中心でした。日本では、若くて優秀な日本人社員を積極的に採用する方針、意思決定の仕方の進め方など、顧客である企業に準じていたことが、重要なポイントです。

貧しい子供たち 手助けしたい

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。

政府保有株の売却は、国の国民の財産を売却することを意味します。政府にとって失敗は絶対に許されません。そこで主事に選ばれるのは、頼りになる会社として国からお墨付きを得られたのだと自負しています。

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。



持田昌典氏(右)は、1977年、慶応義塾大学でラグビー選手として活躍。1981年、ゴールドマン・サックスに入社。2001年に日本法人の社長に就任。

ビジネスを維持するためのさらなる大切なことは、お客様に求めるものをお客様の要望を知ることにあります。お客様の要望を知ることは、お客様の要望を知ることにあります。お客様の要望を知ることは、お客様の要望を知ることにあります。

お客様の要望を知ることは、お客様の要望を知ることにあります。お客様の要望を知ることは、お客様の要望を知ることにあります。お客様の要望を知ることは、お客様の要望を知ることにあります。

お客様の要望を知ることは、お客様の要望を知ることにあります。お客様の要望を知ることは、お客様の要望を知ることにあります。お客様の要望を知ることは、お客様の要望を知ることにあります。

お客様の要望を知ることは、お客様の要望を知ることにあります。お客様の要望を知ることは、お客様の要望を知ることにあります。お客様の要望を知ることは、お客様の要望を知ることにあります。

信賴を裏切らないために

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。



持田昌典氏(右)は、1977年、慶応義塾大学でラグビー選手として活躍。1981年、ゴールドマン・サックスに入社。2001年に日本法人の社長に就任。

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。

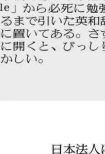
信賴を裏切らないために

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。



持田昌典氏(右)は、1977年、慶応義塾大学でラグビー選手として活躍。1981年、ゴールドマン・サックスに入社。2001年に日本法人の社長に就任。

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。

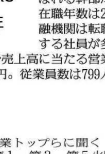
信賴を裏切らないために

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。

△政府が保有する株を売却する際、事務手続きなどを担うという業務がある。ゴールドマン・サックスは、NPO、日本たばこ産業(NJT)、日本郵政など政府保有株の大売却案件で次々と主事事に選ばれてきた。



持田昌典氏(右)は、1977年、慶応義塾大学でラグビー選手として活躍。1981年、ゴールドマン・サックスに入社。2001年に日本法人の社長に就任。

NUMBERS

22.7年

日本法人には「パートナー」と呼ばれる幹部が10人おり、彼らの平均在職年数は22.7年。一般に外資系金融機関は転職が盛んだが、長く所属する社員が多いのが特徴だ。2018年12月期決算で売上高に当たる営業収益は1025億円、最終利益は103億円。従業員数は799人(18年12月末)。

※注目の企業トップらに聞く「LEADERS(リーダーズ)」は第1、第3、第5火曜日に掲載します。

聞き手・山崎貴史 写真・鈴木竜三